

目次

ごあいさつ	(吉田利男)	1
助成金のご案内	(事務局)	2
せせらぎ(事務局だより)	(事務局)	2

ごあいさつ

吉田 利男

「三寒四温」とは良く言ったものです。今年の冬はとて寒く大変でした。灯油の値段も上がり、お金のやりくりで頭を痛め、春の到来を待ち望んでいました。でも、突然、2月の終わり頃に春の嵐が吹き荒れました。そのとたん、我が家の庭の福寿草が芽吹きはじめ、昨日は「落の薑」が姿を現しはじめました。春近いです。

ところで、昨年6月18日に、志を一にする仲間が集まって会の設立総会を開き、事務局の所在地、会の体制および会費の決定、事業計画について検討しました。そして、会の活動はすべての事業が非営利活動として、11月15日NPO法人として申請に必要な書類を作り、松本地方事務局に提出しました。公告後、縦覧に2ヶ月、審査に約1ヶ月の期間が必要で、正式の許可がおりるのは3月上旬の見込みでした。その間に、本年1月28日に理事会を開き、皆様からの今後のNPO活動で何が出来るのか、また何がしたいのか意見を述べ合い、議論を重ねました。

他のNPOとの違う点は、コンサルティング活動を行う、研究活動を行う、情報の集積と発信を行うことです。

その議論のなかでの活動に関する話題をいくつか紹介します。

当地は川の上流域・源流域を多くもちます。源流域に森があると、その林床に落ち葉が堆積し、水を貯蔵し、湧水として下流域に提供しています。また、源流

域に森林があると下流域に栄養分がゆっくりと運ばれ、それを食べて微生物やプランクトンが多発し、それを食べる魚の稚魚や、成魚が産卵に来ます。源流域の森林の役割はおおきいのです。落葉広葉樹のブナやミズナラの稚樹を植える活動も大切です。

安曇野のせぎ(堰)での水路沿いに昔は柳が植えてありました。そのような風景が今はありません。昔の写真を集めて、原風景がどうであったかを調べて、これからの安曇野のすがたを考える話題を提供したい。

松本市内の湧水と湧水路のルートを調べ、生物の生育・生息状況、また人とのかかわりをまとめたい。地域の人に自然の価値を分かちてもらおう活動をしたい。

ヤゴ救出ネットでは、夏の前のプ-ル掃除にあわせて、子供の参加により、ヤゴなどの水生昆虫の救出(移動作戦)を行っている。人工的に作られた水域の調査を行ってみたいだろうか?プ-ルはトンボなどの回廊としての役割を持つので、学校単位で、子供たちやPTAの参加で出来ると、一番良いのだが・・・。

以上、様々な議論がありました。これらのうち、どれから取り組んでいくか、皆様の参加を得て、道を開いていきたいと考えています。私も、微力ながら、世話役をさせていただきます。2月2日に長野県からNPOの認可が下りました。必要書類を整え、14日法務局に法人登記の手続きをとり、最終的に県への登録手続きが終了したのが23日でした。これらの書類の手配作成等の処理を事務局の松井氏が全てやつていただきました。有難うございました。これからが、皆様の力の発揮どころです。

(Mar 04,2006)

助成金のご案内

1. 平成 18 年度公益信託自然保護ボランティアファン ド活動助成 (http://www.bes.or.jp/nature/fand/fand_5.htm)

助成・補助主体名：(財)自然公園財団

支援分野：環境保全

募集期間：2005-12-10 ~ 2006-04-07 締切

助成額：総額 500 万円(1 件 50 万円以内が原則、活
動内容により 100 万円まで)

対象団体等

- (1)非営利で会則などの定めがあること
- (2)団体の構成・運営などが特定の者の意志によって決
められることがないこと
- (3)申請団体(協議会)の設置が必要(正式設置は助成
決定後でもよい)で、そこに自然公園財団・地元自
治体・学識経験者のいずれかが、構成員として参加
していること
- (4)環境省地区自然保護事務所または都道府県庁の自
然保護担当部局の推薦を受けられること

概要説明

国立公園および国定公園の自然保護上、重要な地域
における自然環境の保全に資する実践的活動で、地域
の理解や参加協力を得られる広範なボランティア活動。

2. 公益信託 TaKaRa ハーモニストファンド平成 18 年度 助成 (<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/>)

助成・補助主体名：(公)TaKaRa ハーモニストファン
ド

支援する分野：環境保全

募集期間：2006-01-05 ~ 2006-03-31 締切

助成額：総額 500 万円程度(助成件数 10 程度)

対象団体等

- (1)具体的に着手の段階にある研究・活動
- (2)営利を目的としない研究・活動
- (3)個人の場合：助成金の使途等が本人あるいは親族な
ど特別な関係にある者に特別の利益を与えないこと。

概要説明

日本の緑を構成する森林、木竹等の陸域自然環境
または湖沼・河川等の水域自然環境(水生生物の生態
把握等も含む)に関する実践的な研究・活動を支援。

3. 平成 18 年度 WEC 応用生態研究助成

([http://www.wec.or.jp/center/seido/jeseikin/H18/boshu/joseik
intop.htm](http://www.wec.or.jp/center/seido/jeseikin/H18/boshu/joseik
intop.htm))

助成・補助主体名：(財)ダム水源地環境整備センター

支援分野：ダムに関わる生態環境(課題指定：ダム
に係わる生態環境のモニタリングもしくは事後調査等
に関する応用的研究)

募集期間：2006-3-1 ~ 2006-04-07 締切

助成額：1 件単年度 100 万円以内。助成期間は原則
単年度または 2 ヶ年度、3 ヶ年度を上限。

対象団体等

大学、高等専門学校等の学校、独立行政法人等の法
人、地方公共団体、公益法人、民間企業、NPO 法人
及びこれらに所属する研究者で、十分な遂行能力を
有する研究者。

概要説明

ダム貯水池に係わる生態環境について調査・研究の
促進を図り、その研究成果を発表し、社会へ還元する。

せせらぎ(事務局だより)

長い、長い時間をかけて、ようやく出発点に立ちま
した。川の自然と文化に関連した情報広場・取り組み
の場として、NPO の話が関係者内で議論されて約 2 年、
設立総会を開くまでに約 1 年半が経過していました。
これは、内容の検討や手続き等に難しい障害があった
ということではなく、ひとえに作業を担当する私の怠
慢によるものでした。お詫び申し上げます。これから
も、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

1 月末に、「松本平の扇状地を中心とした堰の自然環
境と景観の歴史的変遷」(河川整備基金助成；(財)河
川環境管理財団)、「松本市街地泉水路の動植物、景観
と利用」(「北陸地域の活性化」に関する助成；(社)北
陸建設弘済会)の 2 件の研究助成申請をしました。

3 月 4 日、「千曲川環境保全シンポジウム」があり、
参加してきました。長野大学環境社会学専攻の教員 4
名により作られた千曲川流域研究会が主催で、大野晃
教授による「山村の限界集落化と流域共同管理」を基
調講演・問題提起として、「川が結ぶ人々の暮らし - 人
と自然に豊かさの創造を目指して - 」をテーマにパネ
ルディスカッションが行われました。私どもの会とも
共通する考え方・テーマもあり、上手くネットワーク
を組むことができれば、と感じました。(KM)

NEWS LETTER [川の自然と文化] No.1

2006 年 3 月 11 日

特定非営利活動法人 川の自然と文化研究所事務局 発行
〒390-8205 長野県安曇野市豊科 2209 番地 11

TEL/FAX (0263)72-3768

HP (準備中)